

インタビュー

# ラグビーとふるさと新潟への思いを語る 稲垣啓太選手

プロフィール 平成2年6月2日新潟市秋葉区生まれ、29歳。中学3年生の時にラグビーを始める。新潟工業高校、関東学院大学を経て、ジャパンラグビートップリーグのパナソニックワイルドナイツにプロ選手として所属。ポジションはPR(プロップ)。身長186cm、体重116kg。靴のサイズは30cm



スコットランド戦で、代表では自身初となるトライを決め勝利に貢献

—— 昨年のラグビーワールドカップ2019日本大会では、見事史上初のベスト8入りを果たしました。新潟で応援していた皆さんへの思いを聞かせてください。  
率直に感謝しています。自国開催のワールドカップで結果を残せなければ日本のラグビーが衰退してしまう、というプレッシャーがありました。それをねのけるだけの後押しをくれたのが地元の声援だったと思います。  
友人を通じて「新潟も盛り上がっているよ」という声も聞こえていました。一選手として、自分が生まれたふるさとから

応援を頂けるといいうのは非常にうれしかったです。  
—— スコットランド戦での稲垣選手のトライも素晴らしいですね。どんなお気持ちでしたか。  
うれしいというよりも驚きの方が強かったです。いつもはトライを決めた選手を追いかけて祝福することが多いのですが、あの時は逆に周りの選手が僕を祝福に来てくれました。そういった今までにない経験をすることができたのは感慨深かったです。  
—— 稲垣選手の活躍をきっかけにラグビーに興味を持った人も多いと思います。稲垣選手が考えるラグビーの魅力を教えてください。  
一つはプレーの迫力です。選手同士がぶつかり合い、力と技を使ってボールを前に運んでいく、コンタクトスポーツとしての魅力を感じてほしいです。  
もう一つはチームスポーツであること。ラグビーは球技の中で1チームの人数が一



市スポーツ大賞特別賞の表彰式では、中原市長が副賞の秋葉区産コシヒカリを贈呈

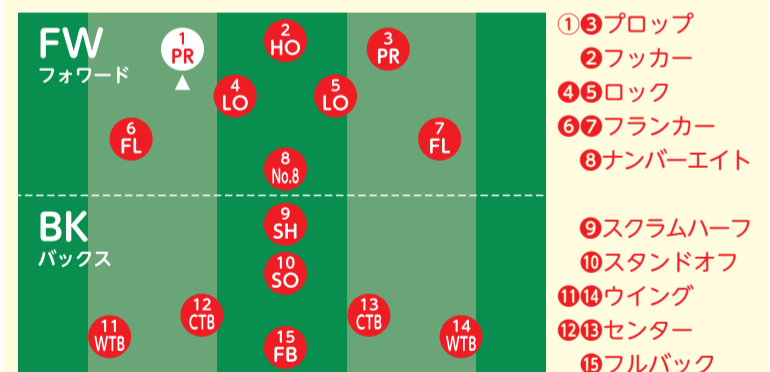


番多い(15人)スポーツです。さまざまな局面で起こるミスやカバーし合う中で、チーム内の協調性やお互いを尊重する気持ちが見る人にも伝わると思います。  
—— 稲垣選手は秋葉区覚路津のご出身です。子どもの頃はどんなお子さんでしたか。  
外で遊ぶのが好きで、小さい頃は家の裏の畑が遊び場でした。友達と野球をして遊んだり、町全部を使って鬼ごっこをしたりと、



表彰式後に母校の新津第二中学校を訪れ、生徒と腕相撲で交流

やんちゃな子どもだったと思います。  
—— 地元の小・中学校や幼稚園を訪問していかがでしたか。  
昔遊んでいて開けてしまった幼稚園の床の穴がきれいに修理されていたのが印象的でした。中学校では通っていた当時の思い出がよみがえってきて、懐かしかったです。  
—— 中学校卒業後、高校で本格的にラグビーに取り組み始めたという話を聞きます。ラグビー部の後輩のためにグラウンドの芝生化に300万円もの寄付をされました。母校への思いを聞かせてください。  
ラグビー選手としての基盤をつくり上げてもらった原点だと思っています。帰ってくるたびにこれまでの自分を振り返り、これからやるべきことを思い出させてくれます。  
また、選手として以前に自分の人間性を築いてくれた場所でもあります。体育教官室に呼び出されて生活態度を注意さ



稲垣選手のポジション「PR(プロップ)」とは？  
FW(フォワード)第1列左右のポジション。スクラムでは最前列で相手選手と組み合う。prop(プロップ)は英語で「支柱」「支える」などを意味し、文字通り体を張ってチームの大黒柱としての役割を担う。ラグビーワールドカップ2019日本大会で、稲垣選手は全5試合に左PR(背番号1)として先発出場した

限りある時間をどう使うかを意識してほしいです。「今の自分に何が足りないのか」「何を求められているのか」を考えると、おのずと「これから何をしなければならぬのか」が見えてきて、良いパフォーマンスや成長につながります。それを理解した上で、時間を大切に使うてほしいと思います。

稲垣選手のインタビュー動画を新潟市文化・スポーツコミッションFacebookで公開しています。  
新潟市文化・スポーツコミッションFB 検索